

(様式1)

平成30年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 045	提案機関名 農業技術センター横浜川崎地区事務所
要望問題名 ホウレンソウべと病抵抗性品種の品種検討	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 【背景】管内ではホウレンソウの栽培が市場や直売向けとして多く生産されている。平成29年度病害虫発生予察特殊報（第1号）によると、県内でべと病レース8および10が確認された。 【内容】ホウレンソウの安定生産のため、べと病発生地では耕種的防除および登録薬剤による防除が必要となるが、抵抗性をうたう品種への期待が高く、各メーカーから多様な品種が出されている。 しかし、べと病抵抗性品種の品質については、生産現場で検討できる品種数はわずかであり、早期導入を図るために、神奈川県野菜優良種導入指針掲載への基礎資料となるよう複数品種について検討していただきたい（べと病抵抗性検定は求めない）。 【対象地域】横浜市・川崎市全域 販売農家 作付農家数 1,275戸、販売農家作付面積 約121ha（2015年農林業センサスによる）	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部野菜作物研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	①、②、④の場合 消費者ニーズに応える高品質・安定生産技術の開発 野菜類の栽培法の確立		
対応の内容等	県内大型直売所や市場販売において重要な品目であるホウレンソウは、近年多様な品種がメーカーより販売されています。H29年4月12日に病害虫防除部から報告された病害虫発生予察特殊報（第1号）によると、H28年2月中旬にレース10の発生が、同年3月上旬にはレース8の発生が本県で初めて認められました。 べと病は発病後の防除が困難です。べと病抵抗性品種の導入にあたり、収量、品質、作業性等特性を把握し選定することは重要と考ております。 べと病は、例年、秋まき秋冬どりの作型で10～12月に、春まき春どりの作型で3～5月に発生が多くなりますので、この2作型においてレース1～8及び10に抵抗性のある品種について栽培試験を実施します。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			